

2026 年 6 月 26 日 山梨県東部・富士五湖の地震の評価

- 6 月 26 日 22 時 28 分に山梨県東部・富士五湖の深さ約 20 km でマグニチュード (M)5.6 の地震が発生した。この地震により山梨県で最大震度 6 弱を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。
- この地震の発震機構は北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
- 今回の地震に伴い、山梨県の K-NET 大月観測点で、1,004 gal (三成分合成) など、大きな加速度を観測した。また、震度 6 弱を観測した山梨県の富士河口湖町長浜観測点では、観測点付近の表層地盤特性の影響により周期 0.5 秒程度の揺れが卓越したことが、周辺の観測点よりも大きな震度となった一因と考えられる。
- G N S S 観測の結果によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 6 月 30 日までに最大震度 1 以上を観測した地震が 9 回発生している。
- 今回の地震活動域の周辺では、1983 年 8 月 8 日に M6.0 の地震が発生するなど、M4.0 以上の地震が時々発生している。また、過去に M4～5 程度の地震が連続した事例がある。2012 年 1 月 28 日には、07 時 39 分に M4.9 の地震 (最大震度 4) が発生した直後の 07 時 43 分に M5.4 の地震 (最大震度 5 弱) が発生したほか、2021 年 12 月 3 日には、02 時 17 分に M4.1 の地震 (最大震度 4) が発生した直後の 06 時 37 分に M4.8 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。
- 今回の地震活動は、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因すると考えられる。

注：G N S S とは、G P S をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年6月26日 山梨県東部・富士五湖の地震

(1) 概要

2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生し、山梨県富士河口湖町で震度6弱を観測したほか、東北地方から中国地方にかけて震度5強～1を観測した。また、神奈川県及び山梨県並びに静岡県で長周期地震動階級1を観測した。

気象庁はこの地震に対して、地震波検知から6.6秒後の22時29分09.4秒に緊急地震速報（警報）を発表した。

この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

今回の地震の震央周辺では、6月26日以降6月30日までに震度1以上を観測した地震が9回（震度6弱：1回、震度3：1回、震度1：7回）発生するなど、地震活動は継続している。

この地震により、負傷者22人の被害が生じた（2026年7月6日現在）。

この地震による被害状況を表1-1に、気象庁及び各地の気象台が発表した主な情報及び報道発表を表1-2及び表1-3に示す。

表1-1 山梨県東部・富士五湖の地震による被害状況
(2026年7月6日14時00分現在、総務省消防庁による)

都道府県名	人的被害				住家被害		
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部破損
			重傷	軽傷			
人	人	人	人	棟	棟	棟	
埼玉県				2			
東京都				6			
神奈川県				3			
山梨県				8			
静岡県				3			
合計				22			

(2) 地震活動

ア. 最近の地震活動

2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因する地震と考えられる。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(図2-2の領域b)ではM4.0以上の地震が時々発生している。2012年1月28日には深さ18kmでM5.4の地震(最大震度5弱)、2021年12月3日には深さ19kmでM4.8の地震(最大震度5弱)、さらに、2024年8月9日には深さ13kmでM5.3の地震(最大震度5弱)が発生した。

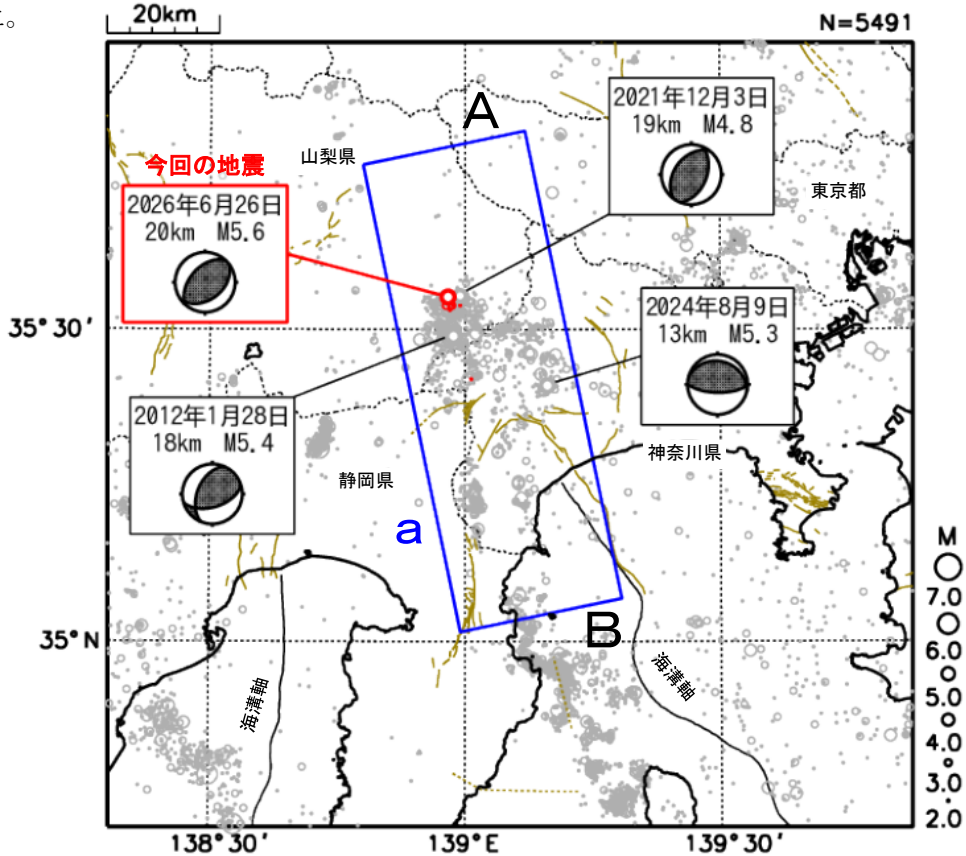


図2-1 震央分布図
(1997年10月1日~2026年6月30日、深さ0~60km、 $M \geq 2.0$)
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示
震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

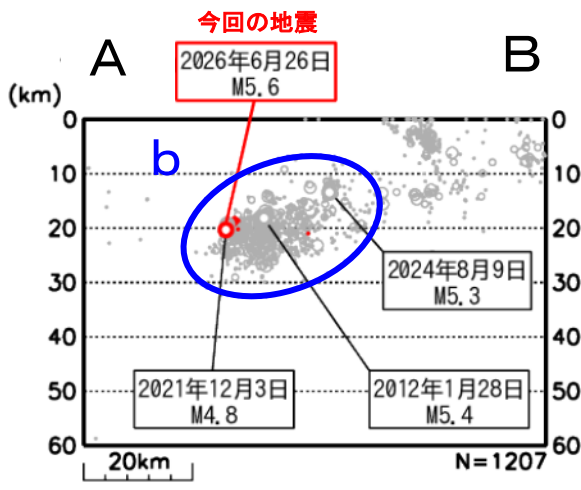


図2-2 領域a内の断面図 (A-B投影)

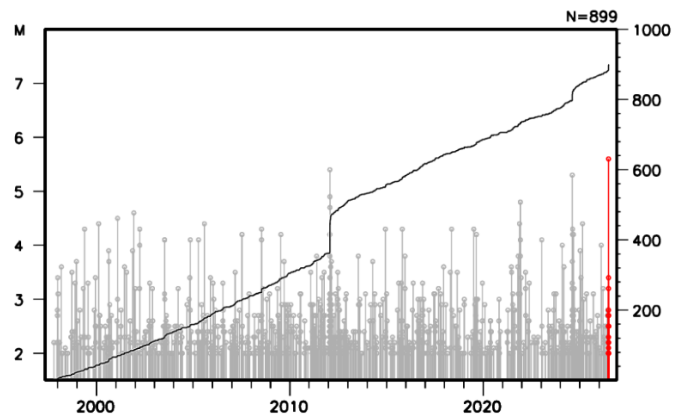


図2-3 領域b内のM-T図及び回数積算図

イ. 発震機構

1997年10月以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の圧力軸の分布を図2-5に示す。また、図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布及び圧力軸の向きの分布を図2-6に示す。

今回の地震の震央付近では、逆断層型の地震が多く見られ、発震機構の圧力軸の向きは北西-南東方向の地震が多い。今回の地震(M5.6)は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

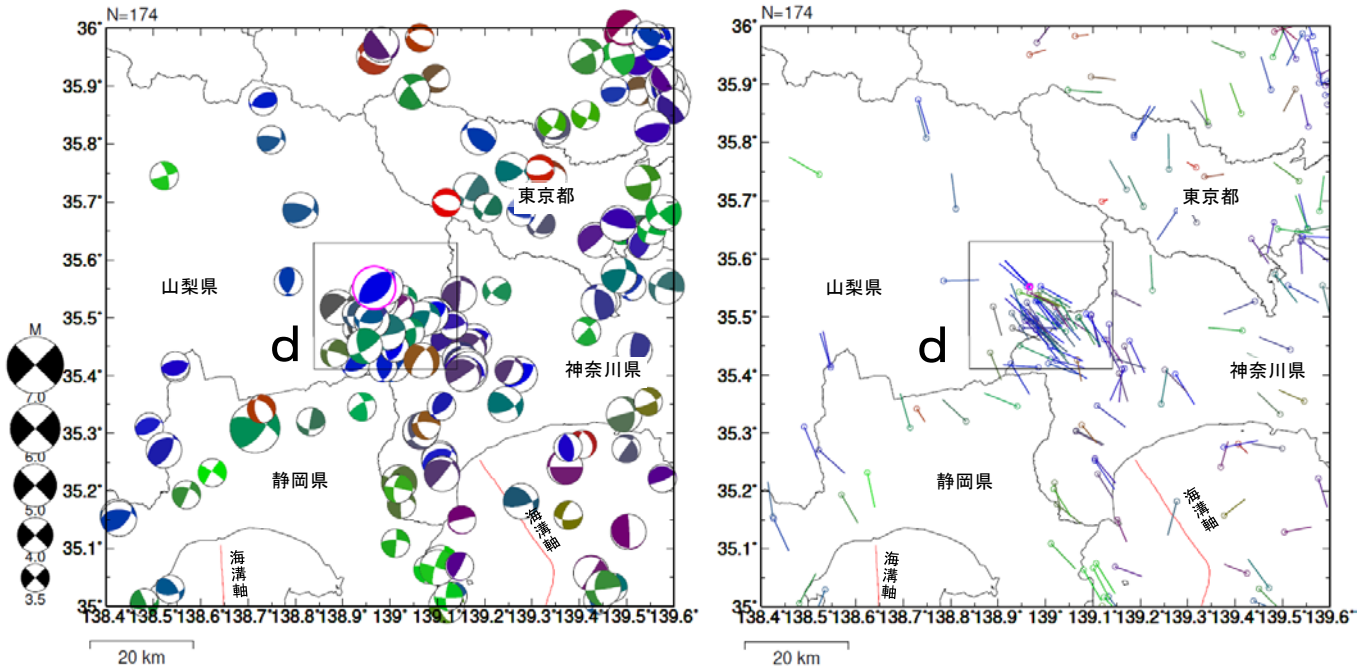


図2-5 発震機構分布図(左)、発震機構の圧力軸の分布(右)

期間：1997年10月1日～2026年6月30日、深さ：0～50km、 $M \geq 3.5$ 、発震機構は初動解による(震源の位置に表示)。逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示(Frohlich(2001)による分類)。

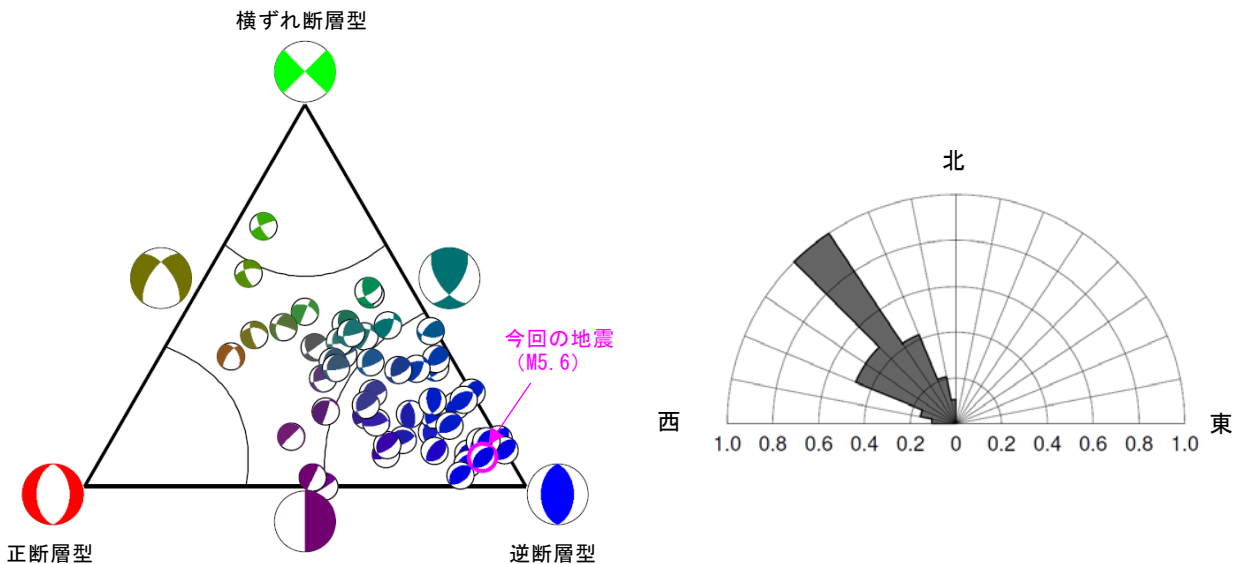
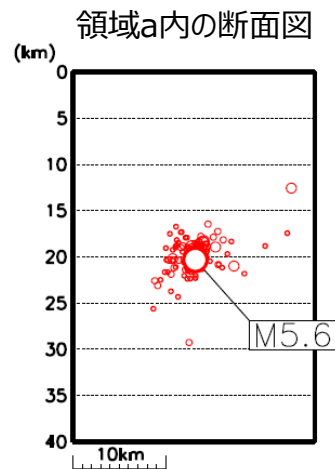
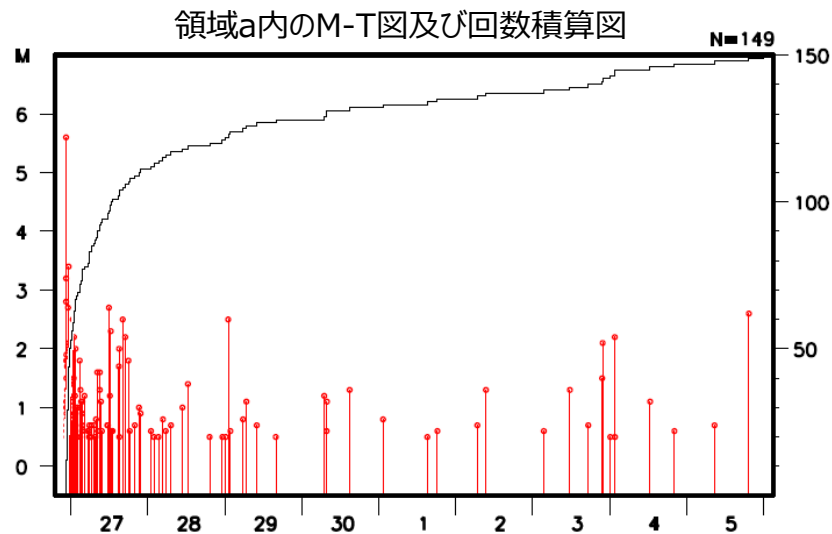
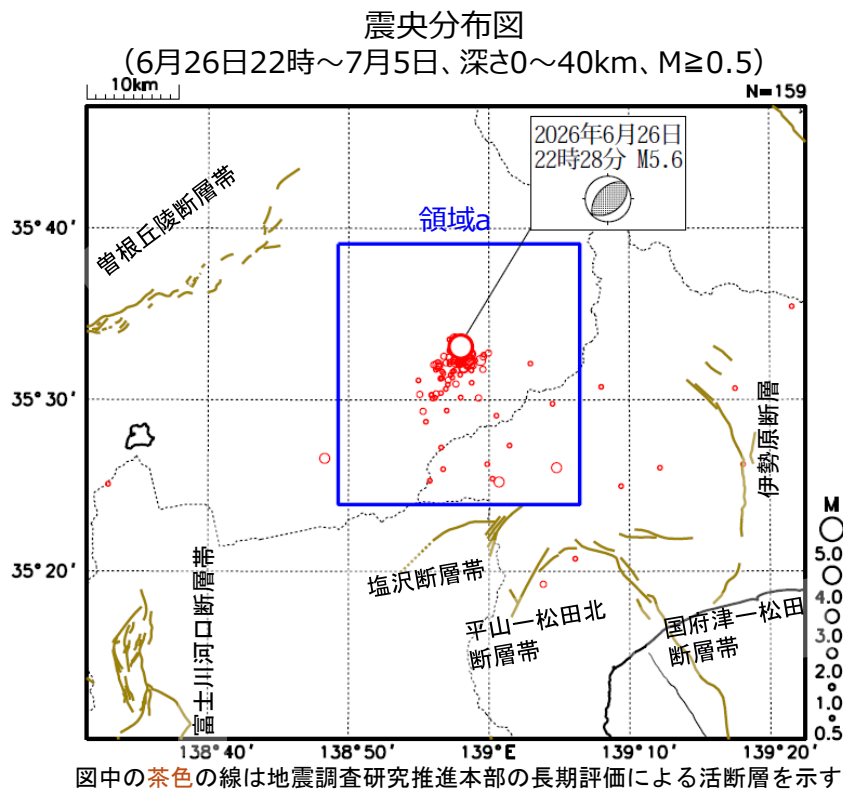


図2-6 図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布(左)及び発震機構の圧力軸の方位分布(右)
発震機構の型の分布は、逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示(Frohlich(2001)による分類)。

山梨県東部・富士五湖の地震活動（6月26日以降）



(3) 震度と加速度

2026年6月26日22時28分に発生した地震（M5.6）により、山梨県富士河口湖町で震度6弱を観測したほか、福島県、関東地方、中部地方、近畿地方及び鳥取県で震度5強～1を観測した。この地震の震度分布図を図3-1に、推計震度分布図を図3-2に、震度5弱以上を観測した地点の計測震度及び最大加速度を表3-1に示す。

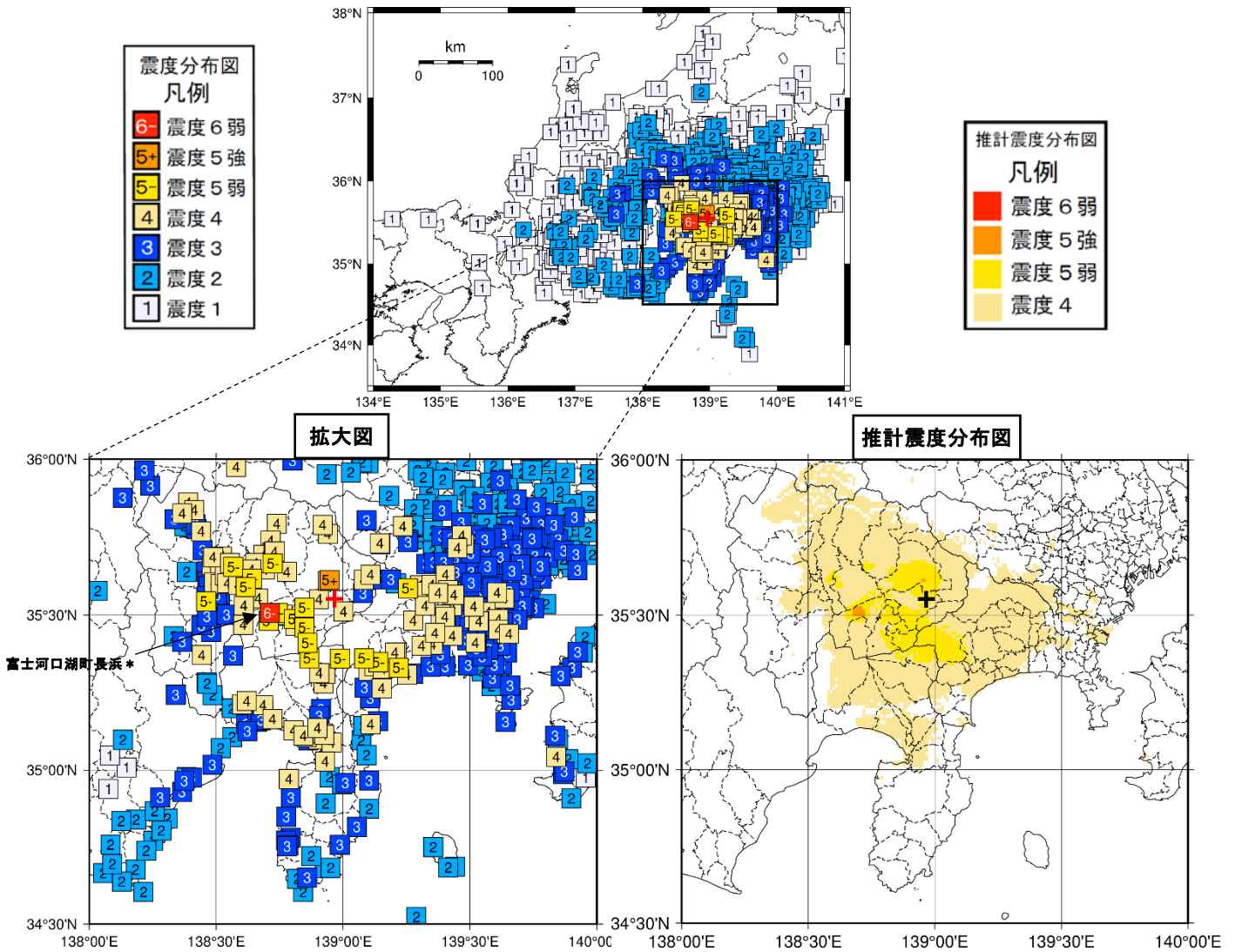


図3-1 2026年6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖の地震（M5.6、最大震度6弱）の震度分布図

図3-2 2026年6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖の地震（M5.6、最大震度6弱）の推計震度分布図

観測点名の*印は、気象庁以外の震度観測点を示す。
図中の+印は震央を示す。

※本推計震度分布図は、地震発生当日に作成されたものである。

<推計震度分布図について>

地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。

このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。

なお、この推計震度分布図は震度の精査後に再作成したものであり、地震発生直後に発表したものと一部異なる。

表3-1 6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖の地震（M5.6、最大震度6弱）の計測震度及び最大加速度（震度5弱以上）

都道府県	市区町村	観測点名	震度	計測震度	最大加速度 (gal=cm/s/s)				震央距離 (km)
					合成	南北成分	東西成分	上下成分	
山梨県	富士河口湖町	富士河口湖町長浜	6弱	5.6	377.4	272.4	309.1	185.4	23.9
山梨県	大月市	大月市御太刀	5強	5.3	1003.8	679.1	725.4	207.7	7.3
神奈川県	中井町	中井町比奈窪	5弱	4.5	96.5	90.6	81.7	41.5	33.2
神奈川県	松田町	松田町松田惣領	5弱	4.7	239.0	200.6	128.8	81.7	27.1
神奈川県	山北町	山北町山北	5弱	4.9	276.1	251.4	269.8	91.7	23.3
神奈川県	相模原緑区	相模原緑区中野	5弱	4.7	388.3	181.6	372.9	70.4	26.2
山梨県	甲府市	甲府市相生	5弱	4.5	265.5	97.4	254.9	75.7	38.2
山梨県	笛吹市	笛吹市境川町藤垜	5弱	4.7	299.8	186.6	250.3	71.2	32.4
山梨県	笛吹市	笛吹市八代町南	5弱	4.5	334.2	260.3	221.3	98.8	30.7
山梨県	甲州市	甲州市勝沼町勝沼	5弱	4.8	208.6	178.8	186.3	83.4	25.8
山梨県	富士川町	富士川町鯉沢	5弱	4.7	174.0	173.8	111.3	32.4	46.2
山梨県	富士吉田市	富士吉田市下吉田	5弱	4.8	539.6	247.8	519.9	304.1	16.3
山梨県	西桂町	西桂町小沼	5弱	4.8	347.8	282.0	335.3	136.8	11.5
山梨県	忍野村	忍野村忍草	5弱	4.8	161.3	154.7	61.3	64.5	14.9
山梨県	山中湖村	山中湖村山中	5弱	4.9	269.7	265.2	236.7	86.5	18.4
山梨県	鳴沢村	鳴沢村役場	5弱	4.6	245.1	139.7	228.6	114.0	25.1
山梨県	富士河口湖町	富士河口湖町勝山	5弱	4.5	182.6	117.7	170.7	117.7	21.2
静岡県	小山町	小山町藤曲	5弱	4.7	192.0	163.8	154.0	58.5	21.1
静岡県	小山町	小山町須走	5弱	4.6	270.6	206.1	190.5	78.0	22.9

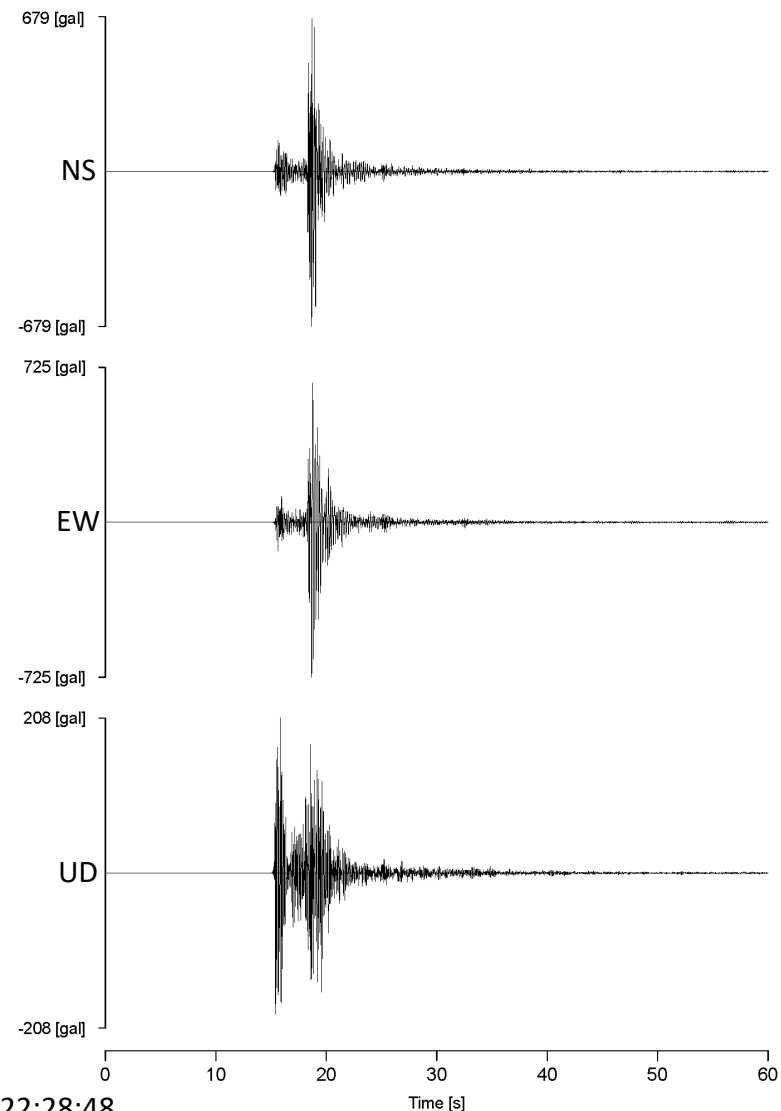
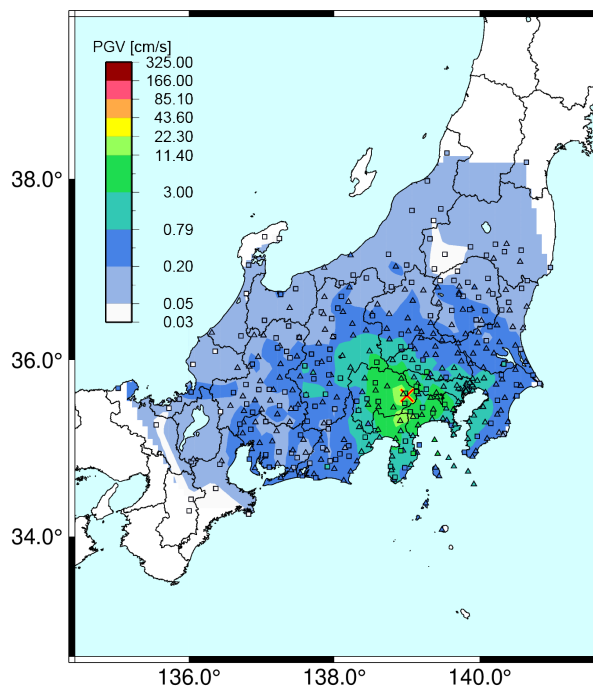
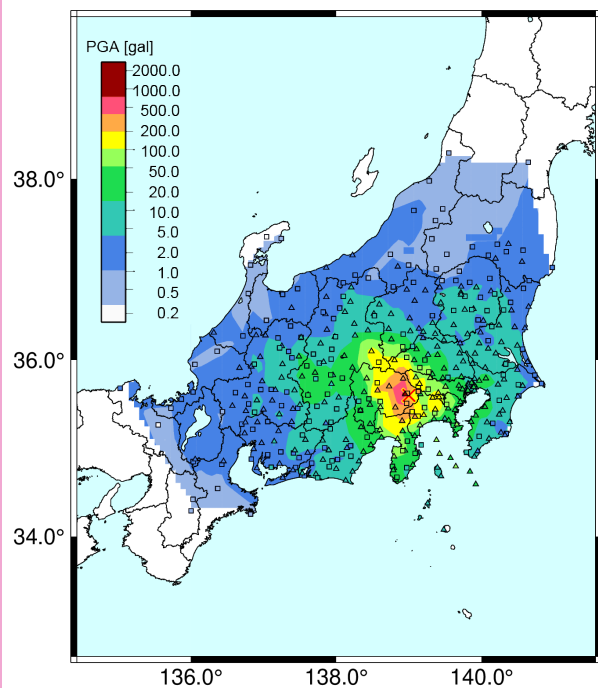
2026年6月26日22時28分, 深さ20 km, M5.6 (気象庁による)

K-NET・KiK-netで記録された最大の地表最大加速度は
K-NET大月 (YMN002) 観測点 (山梨県大月市) での
1,004 gal (三成分合成値)

K-NET大月での加速度波形

地表最大加速度

地表最大速度



△ K-NET □ KiK-net × Epicenter (JMA)

△ K-NET □ KiK-net × Epicenter (JMA)

2026/06/26 22:28:48

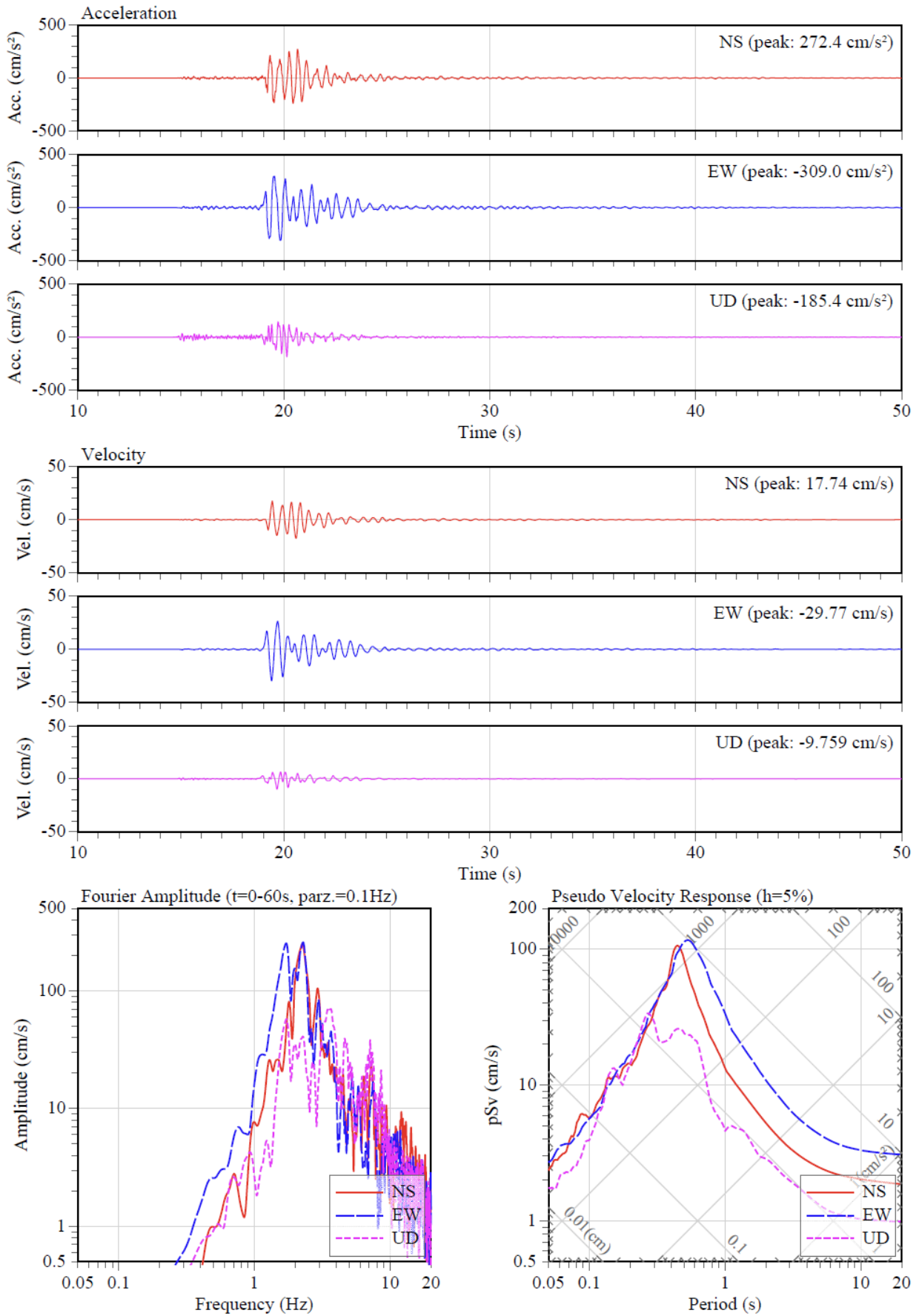
令和8年6月26日22時29分頃の山梨県東部・富士五湖の地震の強震動

令和8年6月27日
東京大学地震研究所

令和8年6月26日22時29分頃の山梨県東部・富士五湖の地震では、山梨県富士河口湖町長浜で震度6弱が観測された（気象庁）。東京大学地震研究所では、山梨県提供の震度観測点の波形を首都圏強震動総合ネットワーク SK-net としてデータベース化している。

山梨県富士河口湖町長浜における、強震動は以下の図面の通り、最大加速度は約 300 cm/s/s、最大速度は約 30 cm/s であり、計測震度に影響が大きい周期 1 秒以下の短周期成分が大きい。また、5%減衰擬似速度応答スペクトルでは、周期 0.5 秒（2 Hz）付近で 100cm/s 以上の応答を有している。

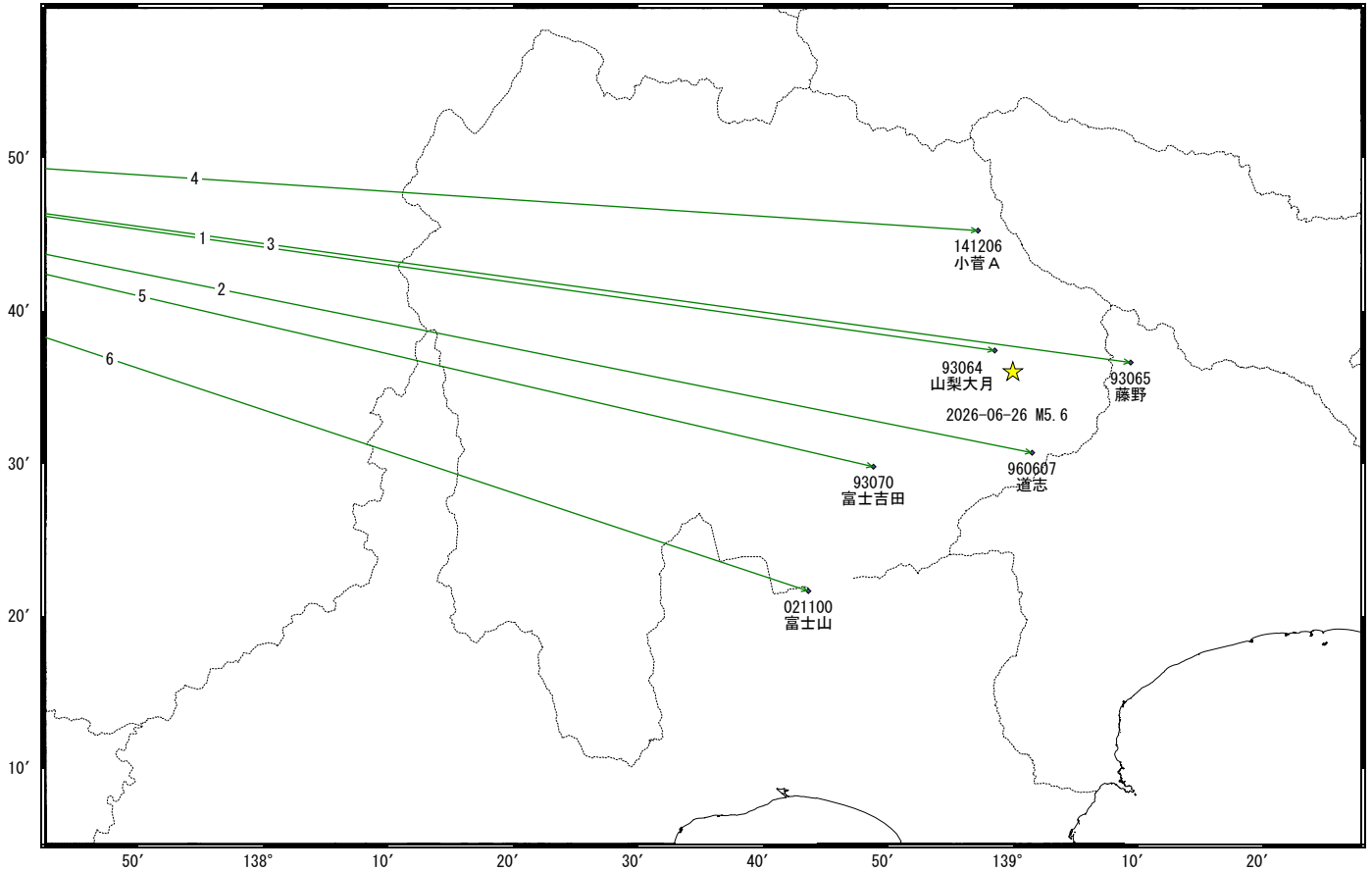
なお、波形描画には、防災科学技術研究所強震観測網の SMDA2 と建築研究所国際地震工学センターの ViewWave を使用した。



山梨県東部・富士五湖の地震(6月26日 M5.6)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

基線図

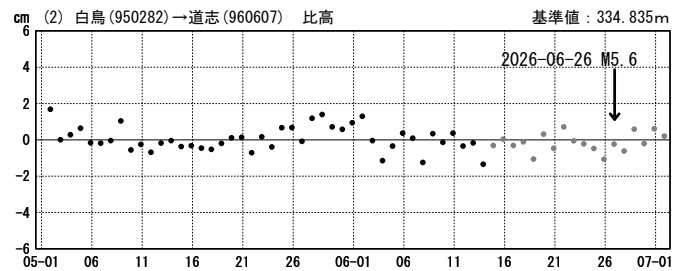
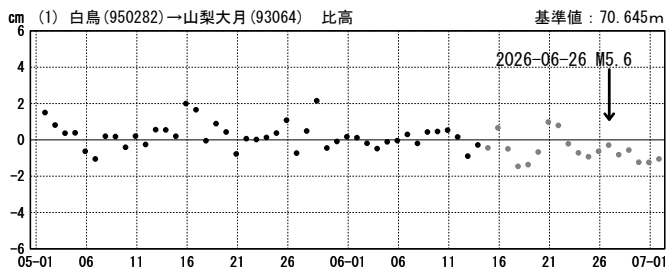
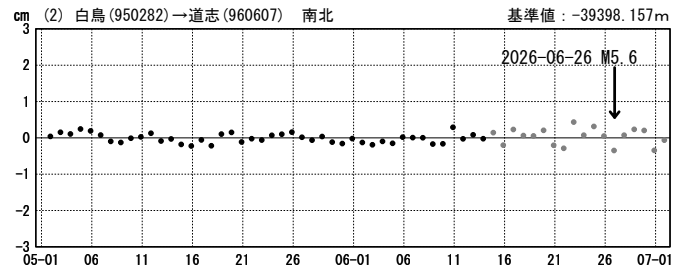
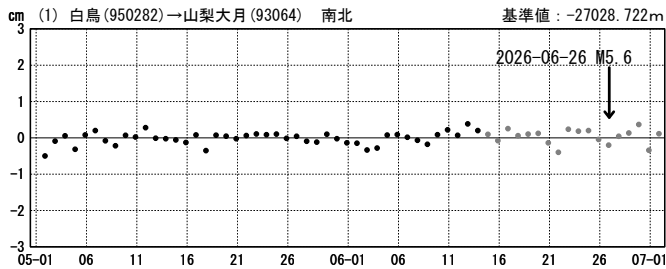
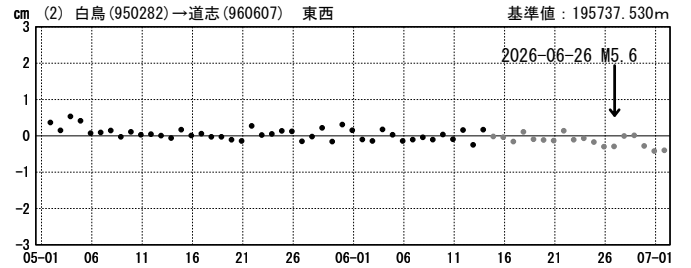
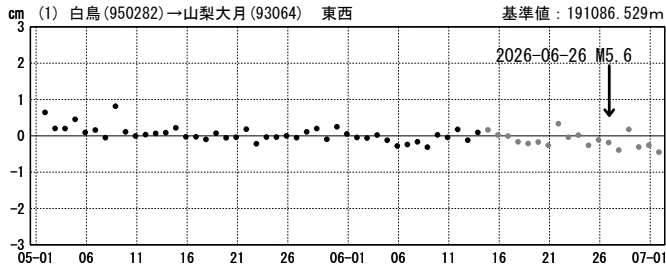


★ 震央
 ☆ 固定局: 白鳥 (950282) (岐阜県)

成分変化グラフ

期間: 2026-05-01~2026-07-01 JST

期間: 2026-05-01~2026-07-01 JST

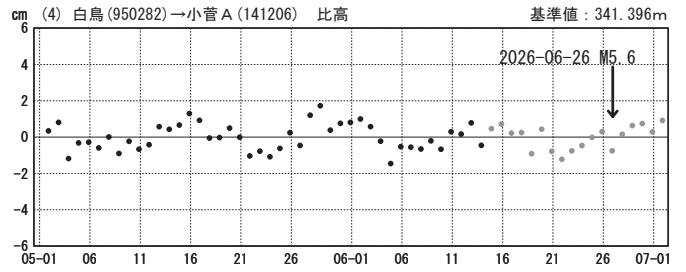
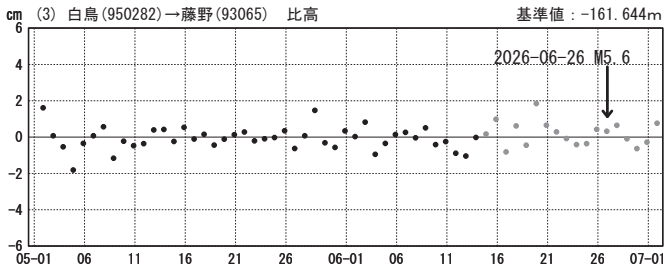
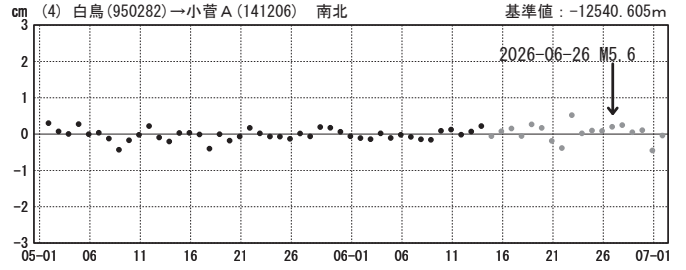
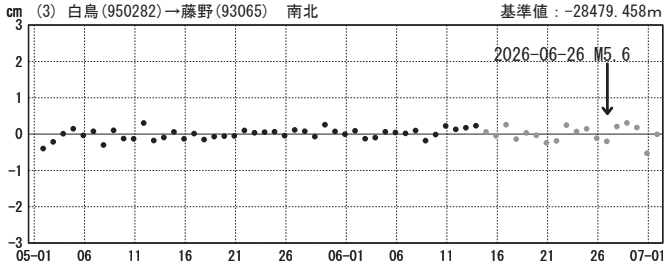
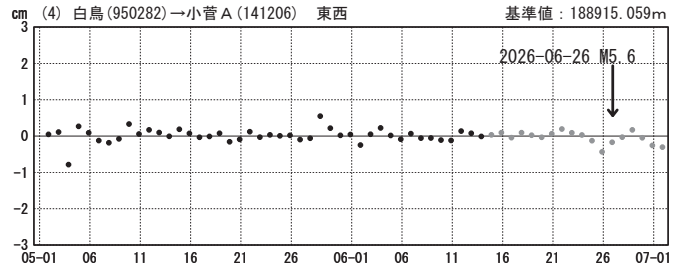
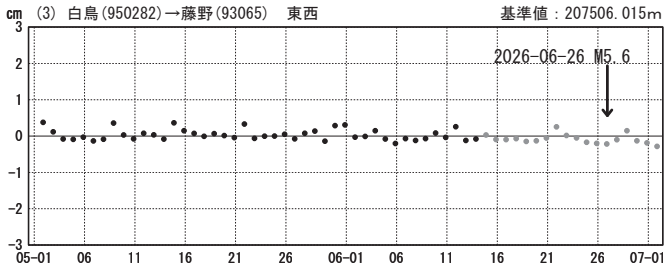


●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

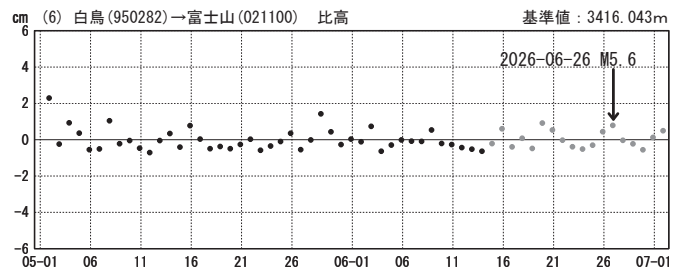
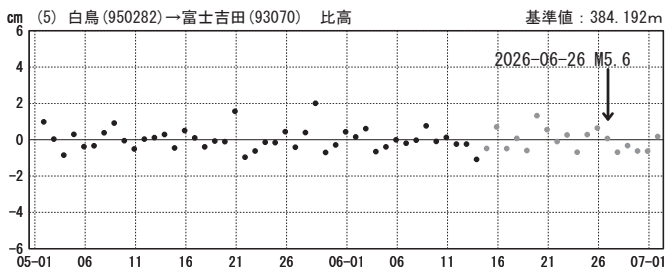
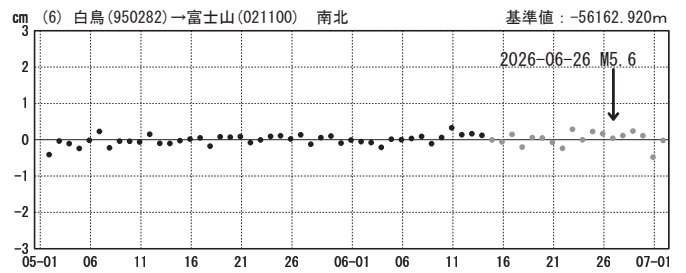
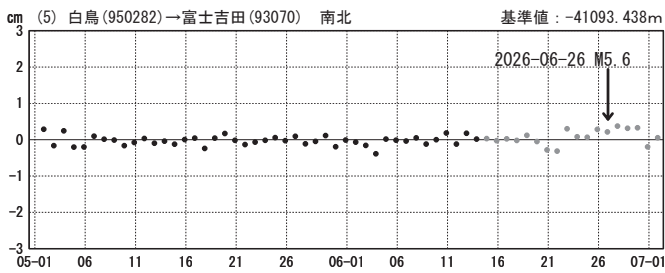
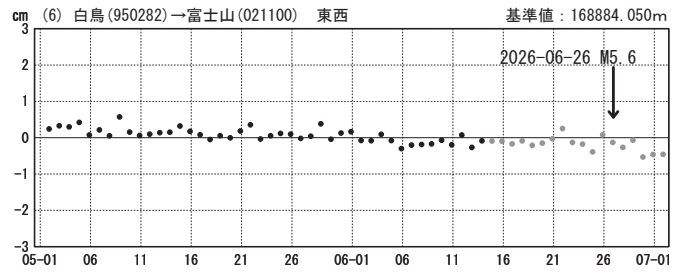
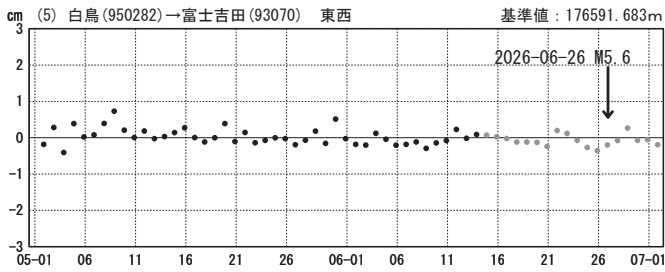
期間：2026-05-01～2026-07-01 JST

期間：2026-05-01～2026-07-01 JST



期間：2026-05-01～2026-07-01 JST

期間：2026-05-01～2026-07-01 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

ウ. 過去の地震活動

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域e）では、大正関東地震（1923年）後10年程度はM6.0以上の地震が複数発生しており、それ以降では1983年8月8日に発生したM6.0の地震（最大震度4）が発生し、死者1人、負傷者33人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

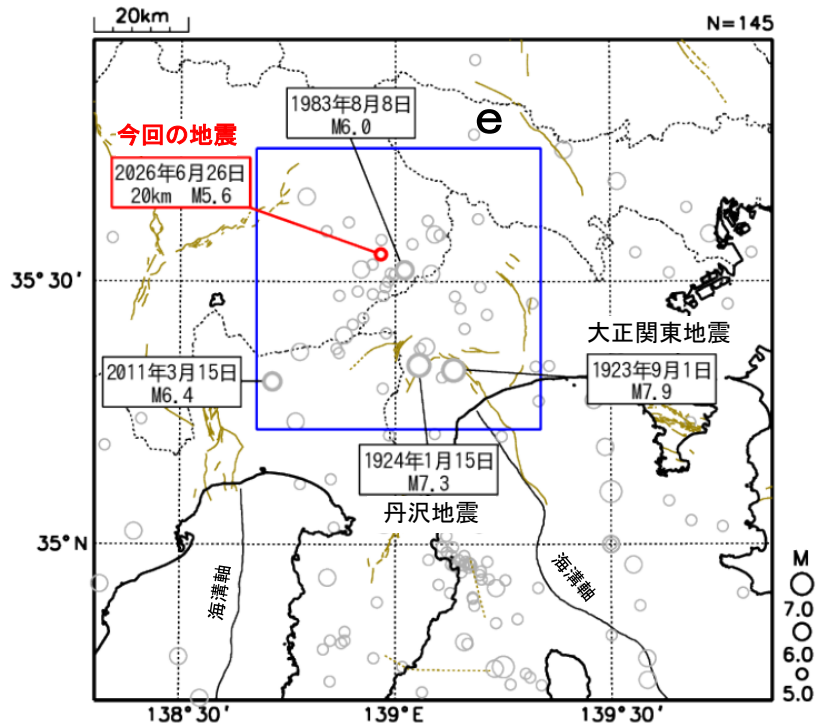


図2-7 震央分布図
(1919年1月1日~2026年6月30日、深さ0~60km、M≥5.0)
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示

震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

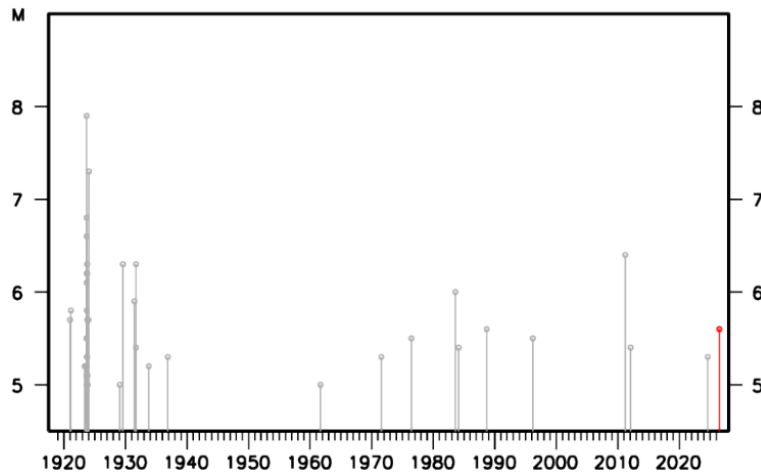


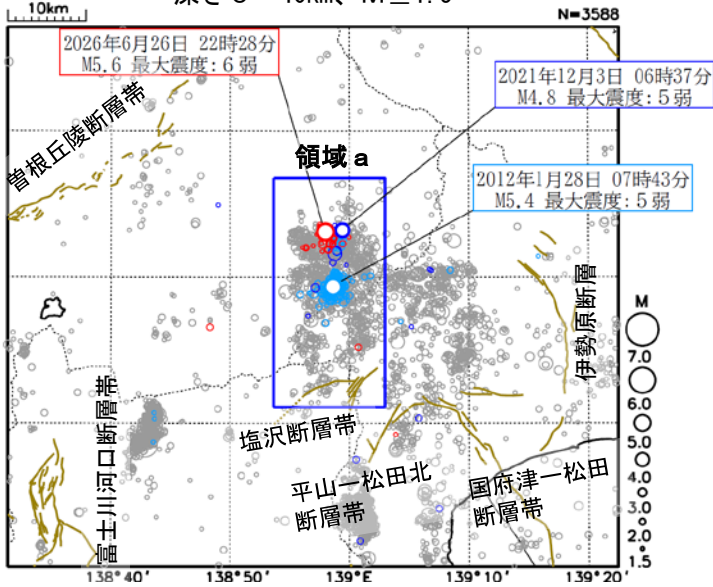
図2-8 図2-7の領域e内のM-T図

山梨県東部・富士五湖の地震活動比較（30日間）

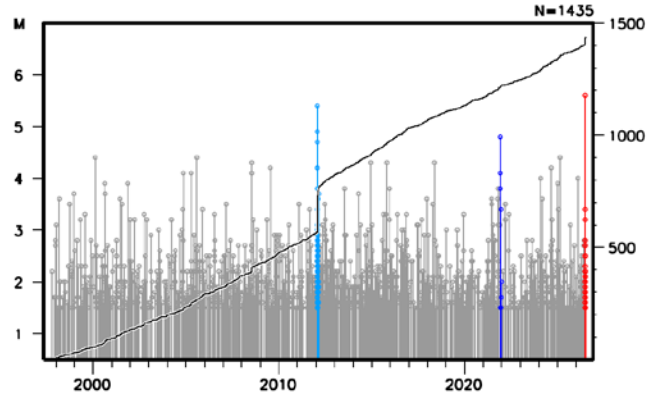
（過去の活動状況との比較、M1.5以上、30日間）

震央分布図

1997年10月1日～2026年7月4日24時
深さ0～40km、M \geq 1.5



領域a内の地震活動経過図及び回数積算図



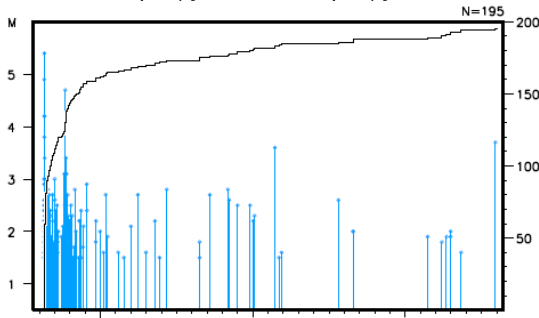
図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

- 2012年1月28日～2012年2月26日：水色
- 2021年12月3日～2022年1月1日：青色
- 2026年6月26日～：赤色
- 上記期間以外：灰色

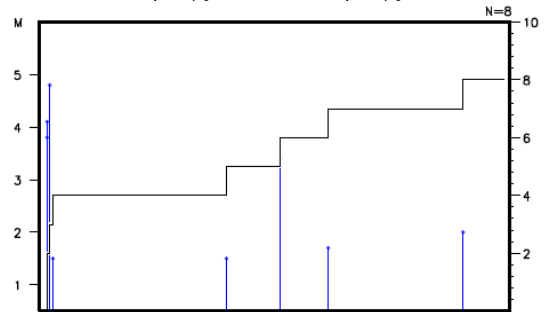
※この資料には速報値が含まれており、後日の調査で変更することがある。

領域a内の期間別（各30日間）の地震活動経過図及び回数積算図

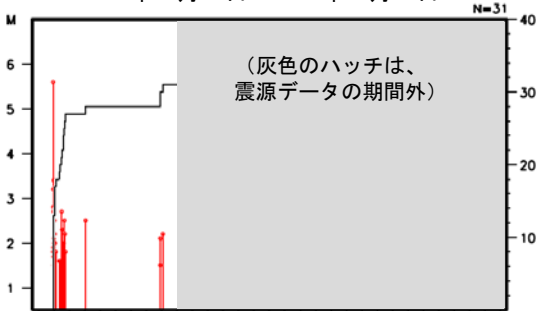
2012年1月28日～2012年2月26日



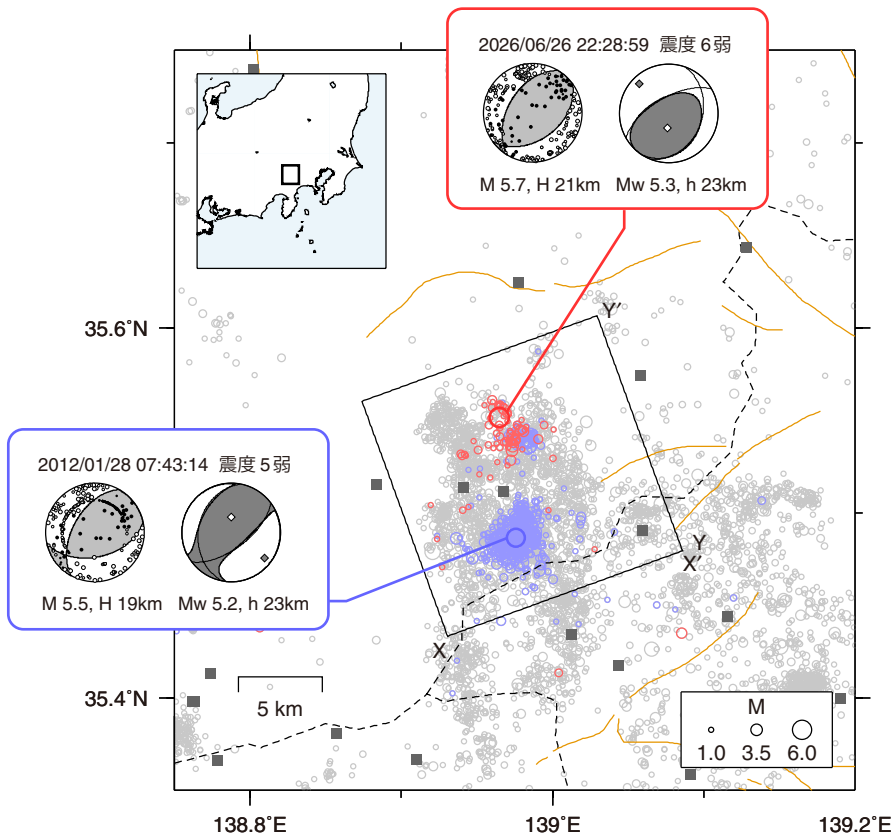
2021年12月3日～2022年1月1日



2026年6月26日～2026年7月25日



2026年6月26日 山梨県東部・富士五湖の地震（震源分布）



- 2026年6月26日22時28分頃に山梨県東部・富士五湖でMj 5.6(気象庁暫定値)の地震が発生
- 防災科研 Hi-netによる初動解およびF-netによるMT解はいずれも北西-南東圧縮の逆断層型
- その後の地震活動は北西-南東方向に5 km程度にわたって分布し, 2012年の活動の北側に位置する

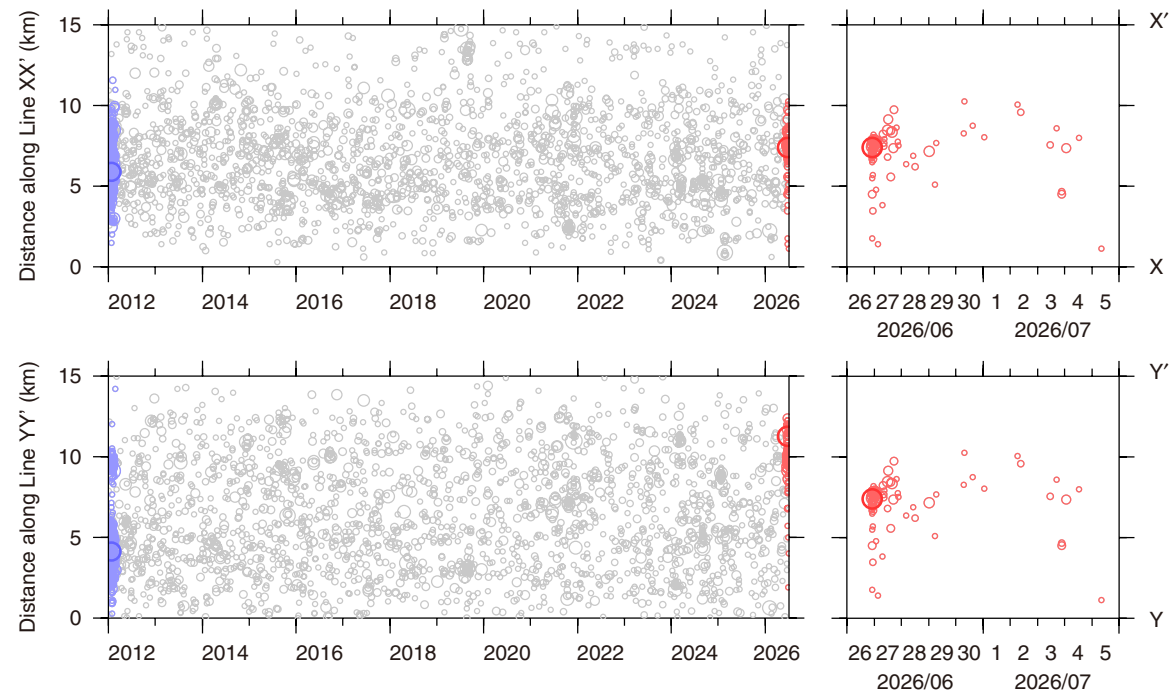


図. (左) 防災科研 Hi-net による震源分布(2012年1月1日~2026年7月5日, 深さ60 km以浅, 手動および自動検測震源)と主な地震の初動解. F-netによるMT解も併せて示す. (上) 震央分布, (下)X-X', Y-Y'に沿った矩形領域内の震源の深さ分布. 赤丸は2026年6月26日22時以降の地震, 青丸は2012年1月28日~2月28日の地震, 灰丸はそれ以外の地震, 四角は観測点, 橙線は活断層研究会(1991)による断層線, 破線は県境. (右) 左図矩形領域内の地震の時空間分布.

謝辞: 解析には気象庁, 東京大学, 産業技術総合研究所, 神奈川県の記事も使用させていただきました.

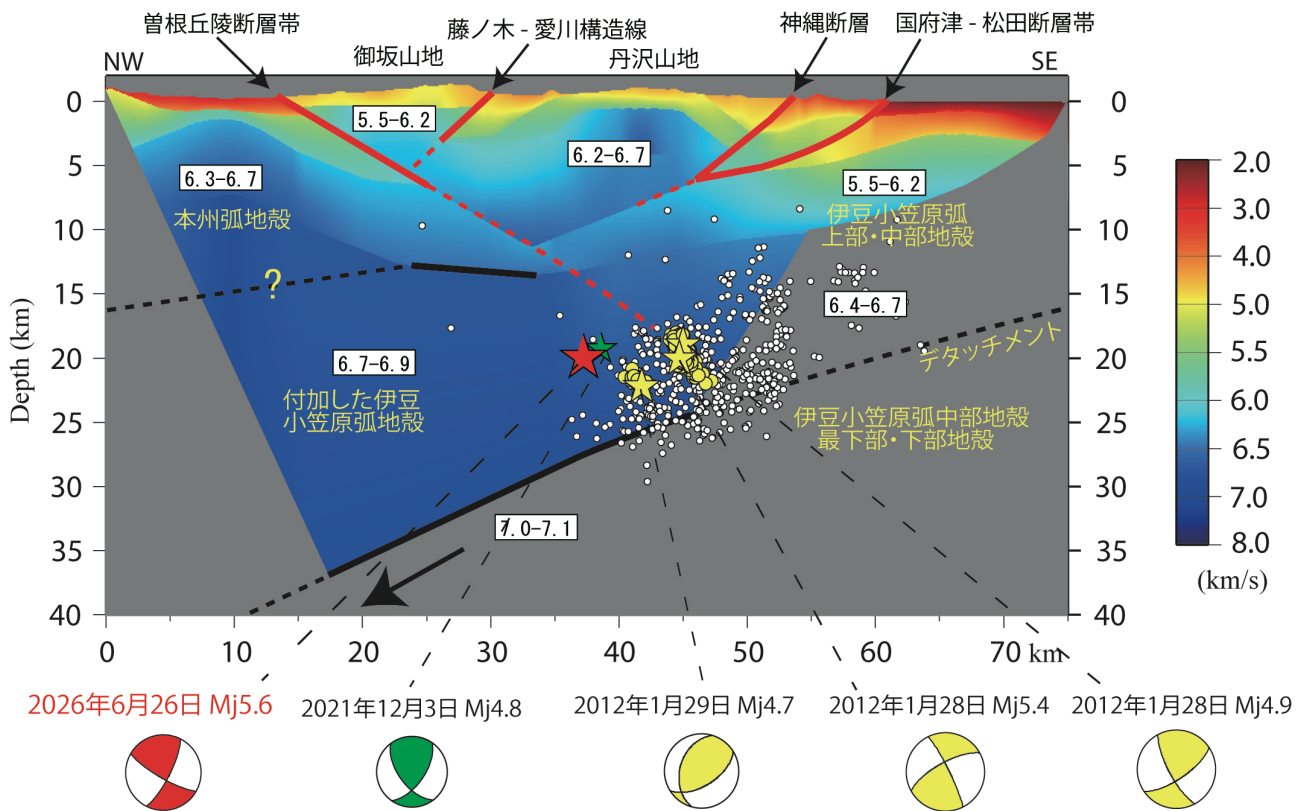


図2 Arai et al. (2014) によるP波速度構造断面（測線は図1の黒色実線）に投影した2026年の地震の震源位置（赤星）と発震機構解。黄色星：2012年・2021に発生したM5クラス地震の震源位置、黄色丸：2012年の地震の余震分布、白丸：2007年4月1日から2010年8月29日に発生したM1以上の地震、赤実線：断層に対応する速度境界面、赤点線：断層の深部延長、黒実線：地殻内の速度境界面、黒点線：推定される地殻内の速度境界面。メカニズム解はF-netによる。2026年および2021年の地震の震源位置（赤星、緑星）は気象庁、2012年の地震の震源位置（黄色星、黄色丸）は3次元地震波速度構造(Kurashimo et al., 2011)を用いて震源再決定されたもの。

引用文献

Arai, R., Iwasaki, T., Sato, H., Abe, S., & Hirata, N., Crustal structure of the Izu collision zone in central Japan from seismic refraction data. *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 118, 6258–6268, 2013.

Arai, R., Iwasaki, T., Sato, H., Abe, S., & Hirata, N., Contrasting subduction structures within the Philippine Sea plate: Hydrous oceanic crust and anhydrous volcanic arc crust. *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 15, 1977–1990, 2014.

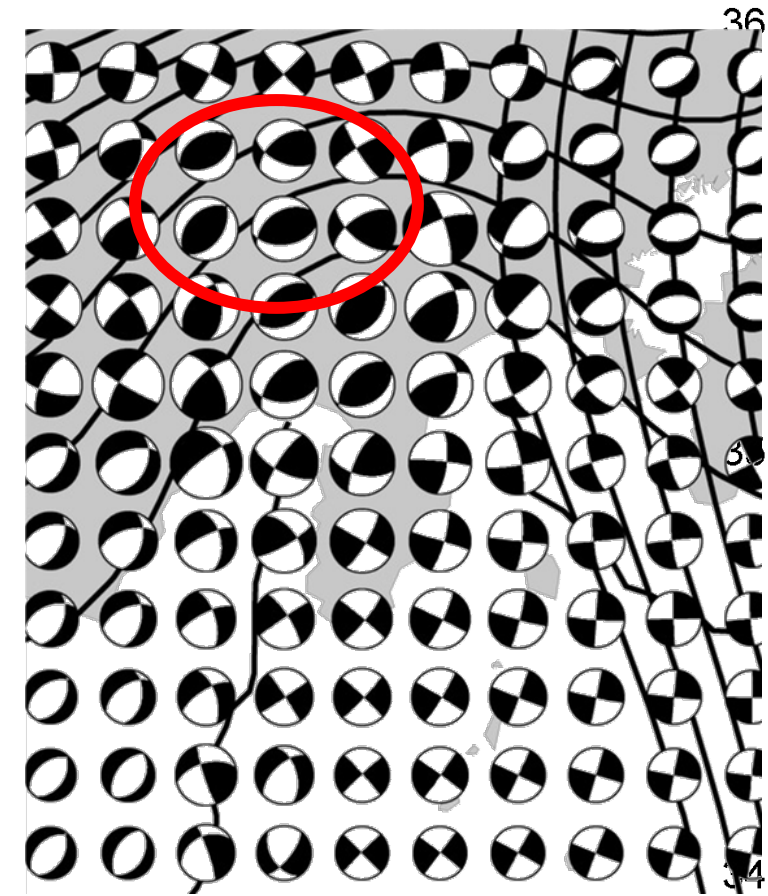
Kurashimo, E., H. Sato, S. Abe, N. Kato, M. Ishikawa, K. Obara, Crustal structure of the Izu Collision zone, central Japan, revealed by dense seismic array observations, *The XXV IUGG General Assembly*, 2011.

佐藤比呂志, 岩崎貴哉, 蔵下英司, 加藤直子, 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト平成19年度成果報告書 3.2.2 自然地震波干渉法による地殻・上部マントル構造調査研究, p150–188, 2007.

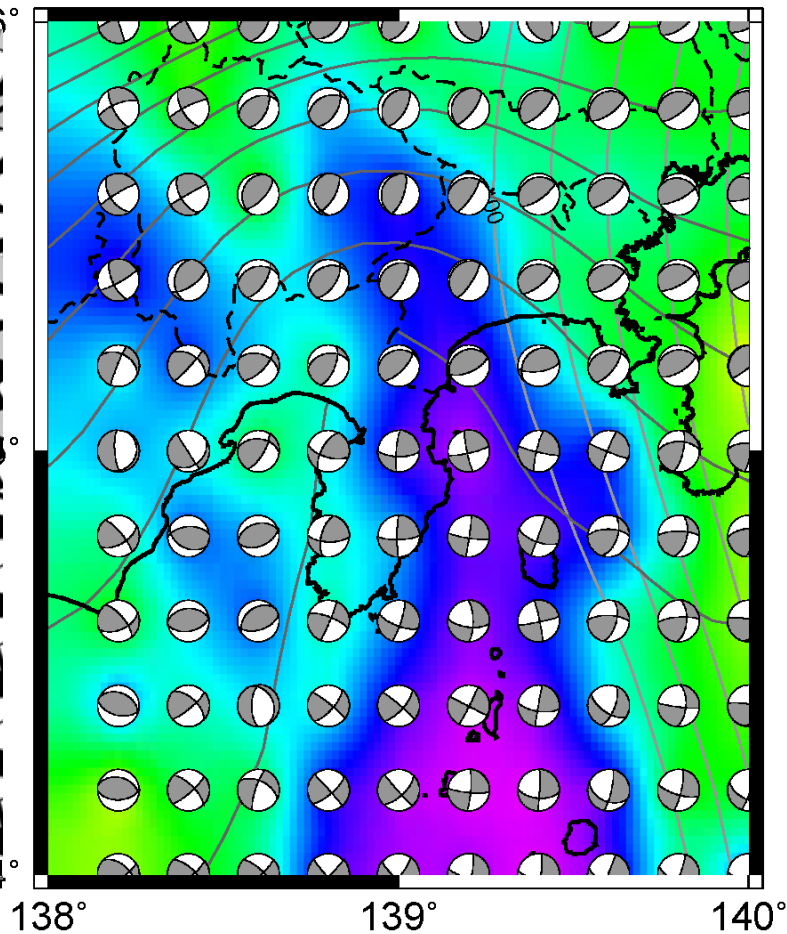
Yamada, T., Yukutake, Y., Terakawa, T., & Arai, R., Migration of earthquakes with a small stress drop in the Tanzawa Mountains, Japan, *Earth, Planets and Space*, 67, 175, 2015.

山梨県東部付近の応力場

事務局資料

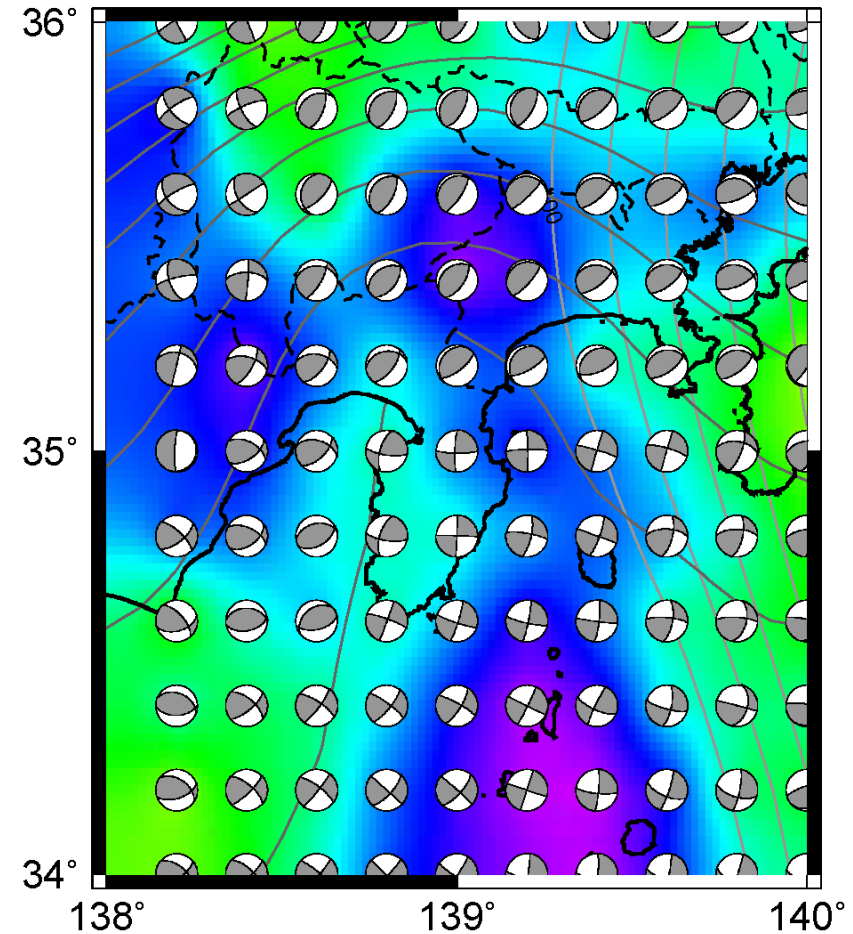


衝突の理論計算
(深さ10 km 球サイズは
応力蓄積レートに比例
Matsu'ura et al.(2008))

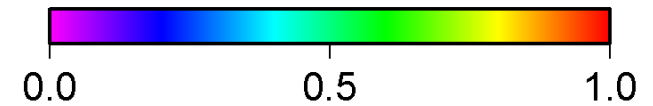


深さ10 km

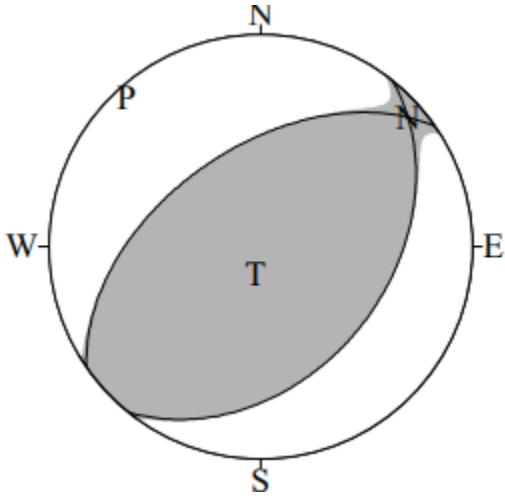
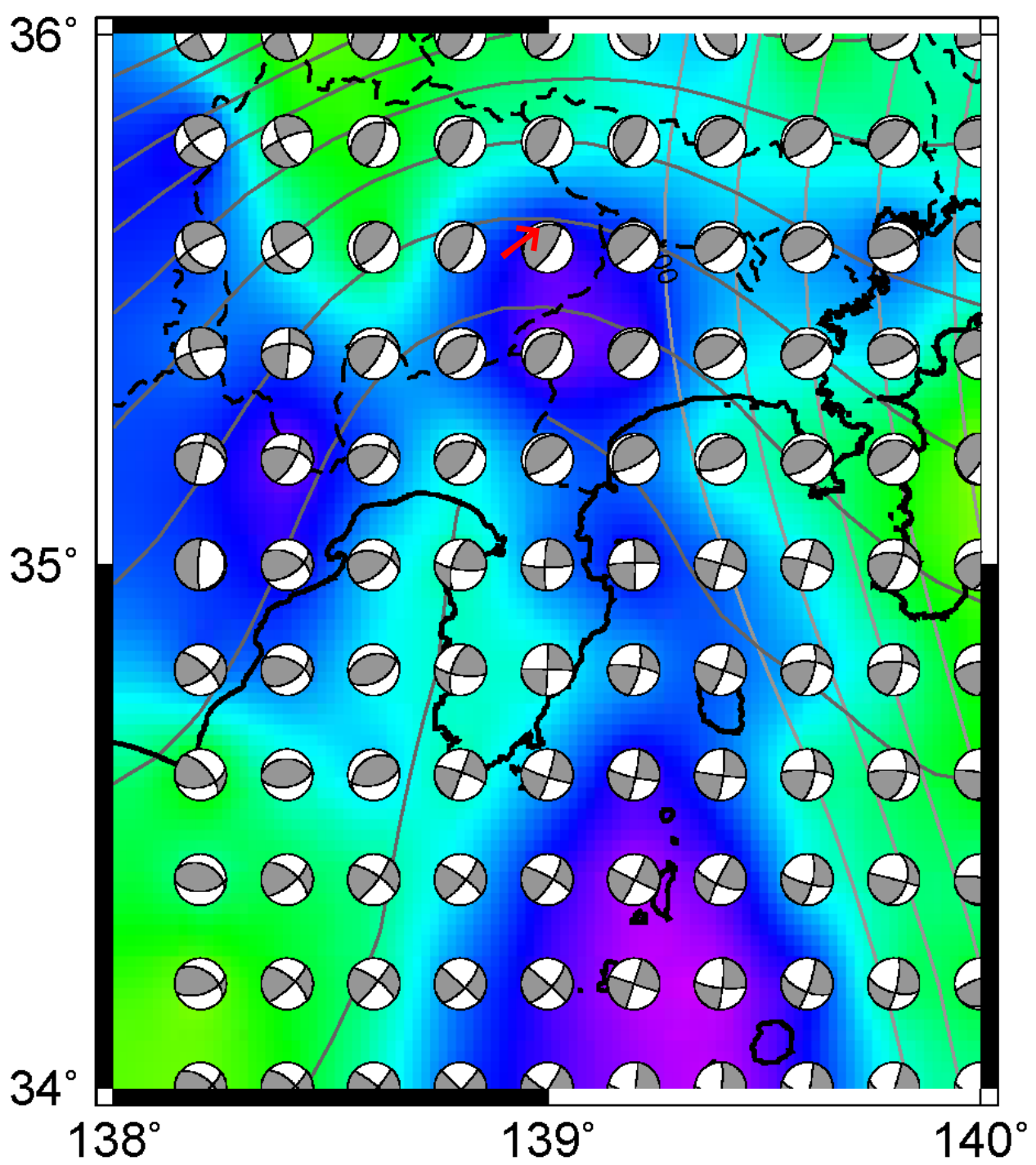
Terakawa and Matsu'ura(2010; 2023)



深さ20 km (寺川提供)



Uncertainties



→は2026/6/26 M5.6 山梨県東部 深さ20 kmの位置

今回の地震はPHSプレートの伊豆半島付け根での衝突に起因して蓄積した歪エネルギーの解放過程として極めて順当

深さ20kmのT&M(2010)の応力場